

研修参加報告書

令和7年5月7日

会 派 名 江南藤クラブ
代 表 堀 元

(参加者： 大藪 豊数)

研修参加の結果について、次のとおり報告します。

年 月 日	令和7年4月24日(木)～25日(金)
研修時間	1日目 13:00～17:40 2日目 9:00～14:45
研修場所	全国市町村国際文化研修所 (J I A M)
研修内容	<p>令和7年度市町村議会議員研修 第1回「防災と議員の役割」</p> <p>1日目 『過去の災害の教訓をこれからの活かすために』 福井大学名誉教授 特命教授 酒井明子氏 『平時の防災と議員の役割』 跡見学園女子大学観光コミュニティ学部まちづくり学科教授 内閣府 被災者支援のあり方検討会座長 元板橋区危機管理担当部長、前区議会事務局長 鍵屋 一 氏 防災企業連合関西そなえ隊幹事 湯井恵美子氏</p> <p>2日目 『令和6年能登半島地震における対応と取組』 石川県能登町議会議長 金七祐太郎氏 『災害時、復旧・復興期の議員の役割』 『ふりかえりとまとめ』 鍵屋 一 氏 湯井恵美子氏 ※肩書は同上</p>

研修参加報告書

年月日	令和7年4月24日(木)～25日(金)
研修時間	1日目 13:00～17:40 2日目 9:00～14:45
研修場所	全国市町村国際文化研修所 (JIAM)
研修内容	<p>令和7年度市町村議会議員研修 第1回「防災と議員の役割」</p> <p>1日目 『過去の災害の教訓をこれからは活かすために』 福井大学名誉教授 特命教授 酒井明子氏 『平時の防災と議員の役割』 跡見学園女子大学観光コミュニティ学部まちづくり学科教授 内閣府 被災者支援のあり方検討会座長 元板橋区危機管理担当部長、前区議会事務局長 鍵屋 一 氏 防災企業連合関西そなえ隊幹事 湯井恵美子氏</p> <p>2日目 『令和6年能登半島地震における対応と取組』 石川県能登町議会議長 金七祐太郎氏 『災害時、復旧・復興期の議員の役割』 『ふりかえりとまとめ』 鍵屋 一 氏 湯井恵美子氏 ※肩書は同上</p>
■目的	<p>伊勢湾台風を契機に災害対策基本法ができ、住民対策は市町村で、その補完を国が担うことになった。</p> <p>しかし、その後の災害で、国・地方自治体など行政だけで出来ることには限度があることも分かってきた。</p> <p>今回は行政とコミュニティをどのようにつないでいくか学ぶのが研修の目的。</p>

■ 内容

1 日目

『過去の災害の教訓をこれからに活かすために』

福井大学名誉教授 特命教授 酒井明子氏

現在は珠洲市で能登半島地震関連の活動をされている酒井氏は、珠洲市長の災害直後から今に至る行動などを高く評価している。

発災直後から尋常ではない雰囲気になる被災地をいかに掌握し、必要な物資等をいち早く届け、対策をとにかく速やかに進め、災害関連の被害を少なくすることに貢献した。

まず役に立ったのは孤立地区への自衛隊や民間のヘリやドローンだった。行けないところに行けるのはとても効果的。困ったのは高齢者・障がい者などの要支援者だった。こちらまで手が届くような対策が必要である。

発災直後(1～3日目)の避難所で悪いスパイラルは・・・

- ・ トイレが悲惨
 - ・ トイレを我慢するため水分をとらない
 - ・ 水分をとらないため非常食を食べない
 - ・ 投薬が必要な避難者の薬が無い
 - ・ 透析ができない人の体調が悪くなる
 - ・ 多くの避難者が下痢になる
 - ・ 急に倒れる人が出てくる
 - ・ 子どもたちのストレスもマックスになる
 - ・ 要支援者も妊娠している人も動き続けなければならない
 - ・ 精神的にひっ迫し、一発触発のキリキリした雰囲気
 - ・ 社会福祉協議会の関わるボランティアには縄張り意識が強く発災直後はあまり役立たない
- ・・・これでは被害が増えるばかり。
- ・ 大切なことは、避難訓練を想定とするのではなく、全て実践することである。特にトイレと食事と薬。
 - ・ 避難所・福祉避難所の役割分担を訓練時からしっかり組み立てる。講師はキントーンを使ったと言ったが、具体的な説明はなかった。
 - ・ 同報系の防災無線はまったく役に立たなかった。情報収集が一番大切な発災直後の連絡方法を見直してほしい。
 - ・ 60歳以上は口を出さないルールが功を奏した。年寄りが口出しする避難所はうまく行かない。子どもから50歳代まで均等に各世代代表を役割分担の代表にしたら、避難所が上手くまわった。
 - ・ 議員について特別な対応の言及はなかった。それはきっと議員はあまり口出ししてほしくないと言う講師の隠れた意志だったのだと感じた。

- ・発災後『せっかく助かった命』を二次災害で失わないために出来ることは『避難訓練の実践実施』以外にない。
- ・福祉避難所、個別避難計画なども大切であるが『人』を不在にしてはいけない。

『平時の防災と議員の役割』

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部まちづくり学科教授

内閣府 被災者支援のあり方検討会座長

元板橋区危機管理担当部長、前区議会事務局長

鍵屋 一 氏

防災企業連合関西そなえ隊幹事 湯井恵美子氏

14:45～（講義）

この講師のお話は実に楽しく聞けること。ともすると『災害関連』のネガティブな話題でも、興味深く聞けることは大切であると感じた。

最初に三つの大切なことを説明された。

◎訓練したことはできる

◎分からないことは相談すればできる

◎急がなければならない

- ・秋田名物の『なまはげ』には「なまはげ台帳」なるものがあり、家々を巡るのに家族構成、家族個々の今年の情報、家の間取り図などが記載されている。これが個別避難計画にとっても役に立った。
- ・神社や寺は北海道以外、比較的ハザードマップなどを見ても災害被害が少ないところにある。
- ・災害時、公衆トイレなどが立ち入り禁止となる。実際の画像を見たが、便器にたまった便は真っ黒で、これは水分をとっていない証拠である。その後は黄色っぽい便となる。これは下痢を起こしている証拠。いずれにしても健康衛生上最悪の事態であることを認識する必要から『トイレ』がいかに大切かを知るべきである。
- ・今回の能登半島震災で、地震の後の水害がいかに怖いかが分かった。
- ・大地震は歴史上でもいつどこに来てもおかしくないことを認識するべき。
- ・この100年間で日本では寿命がおおむね2倍となった。日本ではこの100年間、高齢者がこれほど増えるとは思っていなかった。高齢者など要支援者に避難所まで歩かせるのは『無理』と考えるのが正しい。車で運べる計画を立てるべき。障がい者も同じである。
- ・20世紀の日本では『共助』『コミュニティ』『町内会』などの効果が災害時に42%あった。しかしこれが2022年には8.6%となった。これが大問題であり、一番怖い。
- ・どうして声を掛けてくれなかったのか・・・で人は簡単に死ぬ。

- ・災害弱者はもっと悲惨で、大変大変と言うだけで手を打たないコミュニティばかり。『防災＝福祉政策』と考えるべき。
- ・『正常性バイアス』を与えないようにするには、現実的な防災訓練の実施である。
- ・実に多くの人々が『自分が地震に遭う。ケガをする』とは思っていない。これが防災が進まない本当の理由である。

16:10～（演習）

災害時に議員が何をしたらよいのかを学ぶ。

1 テーブルに4人を配置しての話し合いでは次のような結論が出た。

- ◎全ての対策が『人』のためでなければいけない
- ◎議員がスタンドプレーをしない
- ◎議員も職員も被災者である自覚
- ◎ギブアップが言える雰囲気作り

2日目

『令和6年能登半島地震における対応と取組』

石川県能登町議会議長

金七祐太郎氏

講師は今でも能登町の仮設住宅に住んでいる。本震の4分前の余震で多くの町民が家の外に出ていたため、人的被害は少なく済んだ。結果、直接死は1名のみ。しかし関連死は5名もあった。最も被害を少なくした原因が町民全員参加の『津波想定避難訓練』を日ごろから時間を決めずに行っていたからであった。津波の引き波で家屋が沖まで流された画像が全国にテレビで流された能登町であったが、津波での死者はひとりも出さなかったのはこの避難訓練のおかげ。

～経過～

■令和6年1月1日■

- ・能登町の人口は正月だったため倍以上いたので避難所は大変だった。
- ・同報系防災無線はまったく役に立たない。一般の電話・公衆電話・携帯電話も全く不通。とにかく情報が入って来ない、連絡ができないことが最も困った。今後の連絡ツールは考えないといけない。
- ・倒壊家屋の人命救助に当たるが、警察から大津波警報が出ていることを聞く。しかし、逃げずに救助にあたった。どうしたら良いのか今後の課題と考える。

■令和6年1月2日■

- ・避難所などに食料・水が全く届かない。
- ・身近にある菓子など集めて、子どもから優先的に与える。
- ・ガソリンスタンドは発電機でポンプを動かし給油させる。
- ・稼働できる石油ストーブを避難所に集めて暖をとる。
- ・避難所にはガソリンスタンドのタンクローリーで石油を給油してもらう。
- ・避難後の家屋で窃盗が始まった。

■令和6年1月3日■

- ・自衛隊・広域消防が到着。安心はしたが、3日かかることを知る。
- ・電話が通じたので議員配布のタブレットを通じて安否確認をする。タブレットには災対対策本部からの連絡もするが、市役所や議会に「来るな」という意味の連絡もする。

■令和6年1月17日■

- ・やっと議会で全員協議会が開催できた。
- ・各議員からの要望は直接、災害対策本部に入れずに、議会事務局で集約してから流した。

■まとめ■

- ・とにかく通信が最も大切、防災無線など既存のシステムが全く使えない。
- ・議会には通信ができるタブレットが必要で、持ち歩けることが大切。発災3日後には画像などが付いた連絡が来たので議員も住民も安心できた。
- ・議会の防災計画をBCP計画に基づいて作っておくこと。
- ・『復興特別委員会』を作るといちいち議会承認がいるため小回りが利かない。『復興協議会』にすると小回りが利く。
- ・1.5次避難や2次避難よりも避難住宅建設にすぐに取り組むこと。
- ・議員も被災者であるが、被災した際にやることを事前に打ち合わせていたので、役に立った。
- ・仮設住宅は声掛けが必須、能登町ではなかったが、災害孤独死は必ずある。
- ・スターリンクを地区ごとに備えることが今後は必須であると考える。
- ・とにかくトイレと食料は、ほとんどの自治体で備えが少なすぎる。

『災害時、復旧・復興期の議員の役割』『ふりかえりとまとめ』

鍵屋 一 氏、湯井恵美子氏 ※肩書は同上

- ・東北震災では遺体捜索から安置までの作業中に多くの自治体職員や自衛隊・警察、議員などの心がやられる。被災者にも救助者にも鬱状態の者が増える。
- ・災害は『弱い者いじめ』。弱い者中心の災害対策は多くの命を守る。
- ・支援者にも逃げるタイミングを教え、支援者の危機管理能力(逃げ方)をサポートする。
- ・日常の見守り支援が大切、議員が地域を良く知っていることはとても良い。
- ・災害時、凶器は『住宅』である。耐震・免振対策、圧死の対策を取らせる。
- ・観光客なども要配慮者である。

■まとめ■

- ・防災は愛と科学と経験に尽きる
- ・とにもかくにも実践的な防災訓練を時間を決めずに実施すること
- ・岡崎市の『ひなんさんぽ』は秀逸

- ・ 防災訓練は地域の美味しいモノが食べられるイベントにしよう
- ・ 期限ギリギリのアルファ米や水では住民は参加しない
- ・ 地域共生社会をしっかりと作ること
- ・ 議員は邪魔をするな、応援・協力しよう
- ・ 今後の災害対策はA Iになる
- ・ 議員が行政の悪口を言っても何の役にも立たない
- ・ 国会議員に要望を伝えるのが地方議員の役割

■所感

いつ発生するか分からない災害に備え、自分自身しっかりと準備をしていきたい。また、今回学んだ議員の役割を念頭に置き、対応していくことの大切さを実感している。

今回の研修では、議員自身の役割のほか、自治体の対応についても多くの学びを得たので、市に対し、提言していきたいと思う。

今研修では東北から九州までの地方議員 108 名が参加しており、他自治体の議員とも情報交換ができ大変に有意義であった。